

尼崎市教育委員会 8月定例会 議事録

1 開会及び閉会の日時

令和7年8月25日 午後3時34分～午後4時43分

2 出席委員及び欠席委員

出席委員等	教 育 長	森山 太嗣
	教育長職務代理者	徳山 育弘（日程第3「協議・報告」の「令和7年度全国学力・学習状況調査の結果について」の質疑から出席）
委 員		太田垣 亘世
委 員		正岡 康子
委 員		片谷 勉

3 出席した事務局職員等

教 育 次 長	藤川 明美
教 育 次 長	嶋名 雅之
管 理 部 長	佐々木 修
学 校 教 育 部 長	渡邊 明美
社 会 教 育 部 長	橋本 貴宗
企 画 管 理 課 長	西川 欣伸
学 校 教 育 課 長	民谷 洋二
社 会 教 育 課 長	林 直美

日程第1 議事録の承認

日程第2 議事

- （1）議案第43号 尼崎市いじめ問題対策審議会委員の委嘱について
- （2）議案第44号 尼崎市生涯学習審議会委員の委嘱に関する意見の申出について

日程第3 協議・報告

- （1）令和7年度全国学力・学習状況調査の結果について

日程第4 教育長の報告と委員協議

午後3時34分、教育長は開会を宣した。

森山教育長 本日の日程につきましては、配付いたしております日程表のとおりです。

日程第2「議事」の「議案第43号 尼崎市いじめ問題対策審議会委員の委嘱について」及び「議案第44号 尼崎市生涯学習審議会委員の委嘱に関する意見の申出について」は内容に個人情報が含まれますので、公開しないことが適当であると考えますが、いかがでしょうか。

教育委員 異議なし

森山教育長 異議なしと認めます。

よって、「議事」の「議案第43号 尼崎市いじめ問題対策審議会委員の委嘱について」及び「議案第44号 尼崎市生涯学習審議会委員の委嘱に関する意見の申出について」は、会議規則第6条の2第1項第4号に該当するため、公開しないことと決

しました。なお、公開しないことと決しました2件については、日程第4の「教育長の報告と委員協議」の後に審議することといたします。

森山教育長

それでは、これより日程に入ります。

まず、日程第1の「議事録の承認」についてでございます。

7月臨時会及び定例会の議事録につきましては、先般、事務局より送付しておりますとおりです。内容に質疑等がありますでしょうか。

森山教育長

質疑がないようですので、これよりお諮りいたします。7月臨時会及び定例会の議事録を承認することに異議ございませんか。

教育委員

異議なし

森山教育長

異議なしと認めます。よって、7月臨時会及び定例会の議事録を承認することいたします。次に、日程第3「協議・報告」の「令和7年度全国学力・学習状況調査の結果について」を議題とします。提案理由の説明を求めます。

学校教育課長

学校教育課長でございます。令和7年度全国学力・学習状況調査の結果が、7月に出了したので、ご報告をさせていただきます。

まず、資料1ページの一番上、左側に記しております調査の目的についてでございます。記載の通り、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握分析し、教育施策の成果と課題を検証するということ、そして、その改善を図るとともに、学校におきましては、児童生徒への指導の充実や学習状況等の改善に役立てるということがございます。また、調査の目的の右に記載の通り、調査実施日につきましては、令和7年4月17日木曜日に行いましたが、中学校理科は今年度、CBT調査というコンピュータを使った調査、つまり、生徒がタブレットで問題を解くという調査を行いましたので、その調査だけは4月14日月曜日から4月17日木曜日の間に、悉皆調査で行いました。その下には、教科ごとの調査人数をお示ししております。調査人数が若干違いますのは、例えば特別支援学級の児童生徒が、質問調査は受けることができたが、教科のテストは受けることができなかったというようなこともありますので、人数がそろってはいません。

次に、本市と全国の、平均正答率及び平均正答数の比較を見てまいります。まず小学校ですが、昨年度は平均正答率での全国との差が、国語はマイナス1ポイント、算数はプラス1ポイントでしたが、令和7年度は、国語、算数ともに0ポイントとなりました。理科につきましては、前回は令和4年度に実施されましたが、その時は、全国との差がマイナス2ポイント、令和7年度もマイナス2ポイントとなりました。参考として、令和7年度までの推移を折れ線グラフにしてお示ししております。また、中学校では、昨年度、平均正答率での全国との差が、国語はマイナス3ポイント、数学は0ポイントでしたが、令和7年度は、国語がマイナス2ポイント、数学がマイナス1ポイントとなりました。中学校理科につきましては、正答率や正答数ではなく、IRTスコアというもので示されております。IRTにつきましては、資料の22ページと23ページに資料をお付けしております。IRTは、PISAなどの国際的な学力調査でも採用されているテスト理論で、IRTを使うことで、異なる問題で構成される試験・調査の結果を、同じものさし、同じ尺度で比較できるとされております。

資料1ページに戻っていただけますでしょうか。左下のふきだしの中に記しておりますように、中学校理科の調査ではCBT調査が実施され、問題は公開問題と非公開問

題があり、非公開問題は、生徒ごとに異なる問題を解いております。IRT スコアでは、平均正答率とは異なり、解けた問題の難易度によってもスコアが変わります。それをふまえて、令和7年度の理科につきましては、結果が500を基準としたIRTスコアで示されており、尼崎市のIRTスコアは495ですので、全国の503とはマイナス8となりました。その右側、右下にお示ししておりますIRTバンド、1から5まで5段階のIRTバンドをIRTスコアに換算した表をお示ししておりますが、それに当てはめると、尼崎市も全国と同じく、IRTバンド「3」の中に入っております。以上のようなことから、小学校、中学校とも、調査が実施された教科において、全国との差はほぼありませんでした。

続きまして、小学校、中学校とも、表・グラフの右側に、○印がついているのは、正答率が全国を上回った問題、また、△印がついているのは、課題があった問題として、文言にてお示ししております。詳しくは、資料3ページ目から順番にお示ししておりますので、説明をさせていただきます。

まず、小学校国語において、正答率が全国を上回った問題でございます。目的や意図に応じて簡単に言い換えたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかを見る問題でございました。これは、山田さんの学級で、伝統工芸品を紹介するチラシを書くことになり、山田さんが書いた「てぬぐい」の良さを紹介する文章を読んで、問題に示されている「調べたこと」の中にある言葉や文を取り上げ、60字以上、100字以内で書き直していただくことが求められる問題でした。こうした問題は、本市の児童はできておりました。課題があった問題につきましては、事実と感想、意見などとの関係を、叙述をもとにおさえ、文章全体の構成をとらえて要旨を把握することができるかどうかを見る問題でございました。これは、木村さんが資料1を読み、さらに資料2、資料3を読んでわかったことをまとめた資料4の「木村さんのメモ」を読んで、答えるという問題でございました。資料の中から、言葉や文を取り上げてまとめることが求められる問題で、こうした問題におきましては、全国と比較して課題がありました。

続いて、小学校の算数でございます。小学校の算数でできていた問題は、異分母の分数の加法の計算をすることができるかどうかを見る問題でございました。これは、分母の最小公倍数である6を用いて通分し、計算をすることが必要な問題で、これは本市の児童はできておりました。小学校算数で課題があった問題は、簡単な二次元の表から、条件に合った項目を選ぶことができるかどうかを見る問題でございました。問題では、大根の出荷量をあらわした二次元の表を見て、データの傾向や特徴から導いた結論について、表から根拠となる数に着目できるかどうかのポイントとなっており、具体的には、「春大根」「夏大根」「秋冬大根」の出荷量について、都道府県ごとに出荷量の大小を比較することが必要な問題でございました。

続いて、小学校の理科でございます。小学校の理科でできていた問題は、ヘチマの花のつくりや受粉についての知識が身についているかどうかを見る問題でございましたが、これは、観察や実験したことについて、図に整理したり、関連する用語をまとめたりしながら知識が身につくよう意識して授業をしてきた成果があらわれたものと見ております。小学校理科で課題があった問題は、乾電池のつなぎ方について、直列つなぎに関する知識が身についているかどうかを見る問題でございます。この問題では、電気の性質を利用して、相手に、先に剣を当てたかどうかを音や光で知らせているフェンシング競技を取り上げ、これまでに学習した電気の性質を利用して、フェンシングのおもちゃを作ることについての話し合いをしているという場面で、自分の剣を先に当てた時にベルが鳴るようにする方法や工夫について科学的に探究し、問

題を解決していくという学習場面が設定されております。その中で、乾電池のつながり方について、直列つながりや並列つながりの特徴を知識として身につけていることが求められる問題でございました。

続きまして、中学校の国語でございます。中学校国語でできていた問題は、読み手の立場に立って、表記を確かめ、文章を整えることができるかどうかを見る問題で、三上さんが、職場体験活動でお世話になったお店の店長さんにあてた手紙の下書きの一部を、三上さんが推敲しているという場面が設定されております。その推敲の中で、「専門性」という言葉の「門」という字が間違っていることに気づき、正しく表記することができるかどうかという問題は、本市の生徒はできておりました。課題のあった問題は、読み手の立場に立って、語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるかどうかを見る問題で、具体的には、先ほどの三上さんの手紙の推敲の中で、特に修正したほうがよいと思う箇所を自分で1つ選び、実際に自分で修正し、修正したほうがよいと考えた理由を答えるという問題でございました。

続きまして、中学校の数学でございます。中学校の数学でできていた問題は、相対度数の意味を理解しているかどうかを見る問題で、具体的には、ある学級の生徒40人のハンドボール投げの記録をまとめた度数分布表を見て、20m以上25m未満の階級の相対度数を答える問題でございました。課題のあった問題は、ある事柄が成り立つことを、構想にもとづいて証明することができるかどうかを見る問題でございました。これは、平行四辺形についての証明を読んで、統合的・発展的に考察すること、例えば、証明されたことを参考にして、平行四辺形が成り立つ理由を数学的な表現を用いて説明することが求められるような問題でございました。

続きまして、中学校の理科でございます。中学校の理科は、先ほど申し上げました通り、CBT調査としてコンピュータを使った調査が実施されました。これにより、例えば、画像をクリックすると水の動きがアニメーションで動く問題があったり、短い動画を見て答えたりするような問題も出題が可能となっております。中学校の理科でできていた問題は、科学的な探究を通してまとめたものを他者が発表する学習場面において、探究から生じた新たな疑問や身近な生活との関連などに着目した振り返りを表現できるかどうかをみる問題でございました。問題では、水をテーマに科学的に探究していく様子を順番に見ていき、最後にまとめた内容を発表し、その発表を見た生徒B、C、Dが振り返りを述べるという学習場面を設定しております。それらのすべてを見たうえで、自分の振り返りを記述するという問題でございました。課題があった問題は、水の中の生物を観察する場面において、呼吸を行う生物について問うことで、生命を維持する働きに関する知識が概念として身に付いているかどうかをみる問題でございました。これは、消化や呼吸についての観察、実験などを行い、動物の体が必要な物質を取り入れ運搬している仕組みを観察、実験の結果などと関連付けて理解していることが必要な問題でございました。

続きまして、資料の2ページに戻っていただきまして、ここからは質問調査について、分析をしております。ここでは、質問調査で、肯定的に答えた児童生徒の割合が高い項目や、経年での比較、そしてそれぞれの項目で肯定的・否定的に答えた児童生徒と正答率の関係に着目して、お示ししております。なお、折れ線グラフにつきましては、実線が本市の数値、点線が全国の数値を示しております。まず、これまでと同様に、自己肯定感と自己有用感、この2つのポイントに着目しております。これまでも、上がってきていることをご報告させていただきましたが、今年度につきましても、さらにポイントが上がっている状況でございます。全国には届いてはいませんが、このように、本市の児童生徒の自己肯定感・自己有用感は年々、上がってきていること

がわかります。

続いて、これも昨年度と同様に、主体的・対話的で深い学びという観点で、「各教科などで学んだことを生かしながら自分の考えをまとめる活動を行っているか」という問いや「友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができているか」という問い、「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思うか」、「友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいるか」という問いに対して、肯定的に回答している児童生徒の平均正答率を見ると、帯グラフであらわしているように差が出てきます。です。黄色いふきだしの中に記しているように、様々な教科で学んだことや友達の考えを組み合わせ、新たな学びに生かすことができている、また、友達や周りの人からの様々な考え方や視点を取り入れて学習活動を行うことで、より深い理解につながっている、というところをお示ししております。

今年度、新しく着目した部分につきましては、「地域にかかわる活動」というところでございます。「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思うか」という問いに対して、昨年度と比較して、全国と同様に下がってはいるものの、高い数値を示していると見ております。さらにこうした思いを広げていくことができるよう、黄色いふきだしの中に記しました通り、学校教育課で所管しております事業、小学校では尼崎の歴史を学ぶ AMATAN 事業、中学校ではより良い集団づくりを目指す「社会力育成事業」、その中で、奄美群島との交流を通して次世代のリーダー育成を目指す「AMA フレンドシップ事業」など、こうした事業を通して、児童生徒の地域や社会にかかわろうとする意欲を、さらに伸ばしていきたいと考えております。

最後になりましたが、調査結果につきましては、政策推進会議、また、市議会でも説明し、すべての報告が終わったあとに公表したいと考えております。また、資料といたしまして、最後に、あまっ子ステップ・アップ調査の結果につきましても、すでに報告しているものではありませんが、お付けしておりますので、またご覧ください。以上で、報告を終わります。

森山教育長 報告は終わりました。報告内容に質疑はありませんか。

徳山委員 理科は全国平均を大きく下回っているがなぜか。

学校教育課長 中学校の理科につきましては、今年度から平均正答率で示しているものではなく、500 を基準とした IRT スコアというもので示しております。差としてはマイナス 8 になりますが、それを示す IRT バンドでいえば、全国と同様の IRT バンド「3」という中に入っておりますので、全国とほぼ同等というふうに見ております。

太田垣委員 マイナス 8 ポイントとマイナス 1 ポイントとあるが、健康表に例えたら正常値なのか。

嶋名教育次長 これを正規分布に表しますと、一番真ん中の大多数のところは、IRT スコアの「3」にあたるバンドで、そこが 500 が基準です。その範囲内に尼崎もいますので、全体平均としては標準ということになります。

徳山委員 スコアの 5 や 1 に入っている市町村はわかるか。

嶋名教育次長 他の市町については、その市町村が公表しない限りわかりかねます。

片谷委員 5に入っている市町村が何個あるのかもわからないのか。

嶋名教育次長 それも公表はされませんので、わかりません。

太田垣委員 学校別では出るのか。

学校教育課長 学校にも個別に結果は送られております。

片谷委員 尼崎市内の中学校間で違いはどれぐらいあるのか。

学校教育課長 現在のところ把握はできておりません。

片谷委員 前に SDGs の関係で学校に行って会社を紹介して、その紹介をしたことを生徒が発表するというのを、中学校2校でやって、片方がすごかった。これが点数で現れたりするのかなと、ちょっと気になったので、学校ごとにわかるのかと質問をした。市の中でも学校によって差は出てくると思うので、公表しなくてもここら辺も見れたら。

徳山委員 今までは平均を出して、それとの差を見ていたが、それはあるか。

学校教育部長 平均正答数を出しておりまして、中学校の場合、国語が全国が 7.6 問、尼崎市が 7.3 問正答という 0.3 問の差で出ているかと思いますが、理科は公表している問題としていない問題がございまして、一応全部出ているものでは 6 問中、全国との差が 0.1 問となっていますので、それほど大きな差はないです。IRT バンド「3」の中に入っていますというのはそういうことになるかなと思います。

正岡委員 先ほどの問題で、1 人ずつ違うみたいなことを言っていたかと思うが、それはランダムに割り振られるのか。

学校教育課長 はい。ランダムに割り振られます。

正岡委員 資料の最後の 2 ページに、学力調査の学力層別人数で、小学校と中学校と出てくる。小学校、中学校とも、A 層が増えているような赤字が一番多い。これは、例えば昨年と比べて良くなっている層だと思うが、何かこれに関しての評価があれば教えてほしい。

学校教育課長 ありがとうございます。委員おっしゃっていただいたとおり、年々 A 層の児童生徒数が増えておりますので、これはこれまで学校が取り組んできた学力向上への取り組みの成果があらわれたものと見ております。

正岡委員 最後のページだが、中学校の社会科は、なんのテストか。全国学力・学習状況調査にも、社会はないが。

学校教育課長 最後のページにつけておりますのは、あまっ子ステップ・アップ調査というもので市が独自に行っている調査でございます。その調査では、中学校につきましては 5 教科実施しておりまして、ご覧のような表になっております。

正岡委員 そのテストは、学校でしているテストか。

学校教育課長 市内17中学校、同じテストをしています。

正岡委員 それは尼崎市が独自で作成した問題なのか。

学校教育課長 業者の作成したテストになります。全国にも同じく、そのテストを実施している自治体もございます。

正岡委員 中学校の国語・数学・英語も、小学校もその業者のテストか。

学校教育課長 同じでございます。

太田垣委員 尼崎市の課題が先ほどあったが、例えば、国語の表現で、これは尼崎市がたまたま悪かったのか、それとも文化的な背景だったり、その先生の教え方だったりで大きく変わっていくのかというのが疑問だが、その辺はどうか。

学校教育課長 この問題につきましては書いておりますとおり、文章全体の構成をとらえて、要旨を把握する力がまだ足りてなかったと、いうふうに見ております。

太田垣委員 どなたかが、「ごんぎつね」の今の若い人の解釈というのが恐ろしいっていうような見解をメディアで挙げられていた。「ごんぎつね」の中にお葬式のシーンがあって、大人たちがグツグツと何かを煮ている。これは何をしているところかという質問で、お葬式という背景とグツグツというので、こどもたちは死体を煮ているとか、そういうことを書いている生徒がすごく多くなって今の世の中が恐ろしいとかいう評価がなされていた。最近はお葬式の仕方も家族葬とかになっていて、お葬式を知らない子達、ゲームの中で育っているこどもたちが、そういう質問を受けたらそうなこともあるだろうなと思った。国語というのは、地域とか地域性もあるし、先生の価値観もあって、答えには大きく差があるものなのかなと思ったので、ちょっと現場の声を聞きたいなと。

学校教育部長 言葉や時代背景、物、生活の中にあるものが、どんどん変わってきているというところは、今おっしゃったようなところかなと思います。
ただ、国語の問題の正答率が低いといいましても、国語全体でいうとプラスマイナスゼロですので、この問題の3の2ー(1)も、全国と尼崎市との差は1.2%ということで、それほど大きな差があるわけではなく、8割以上の子供が、回答できているというところではありますので、課題点を強いて挙げるならというところで挙げさせていただいているので、昔のように10ポイントも差があるというような大きな課題ではないんですけども、こういうところが少し弱いかなと、いうところで上げさせていただいております。
たまたまこの問題が今回こうですけども、全体的に読書するとか、しっかり自分で考えるとか自分の意見を持つというところなどは、日々の授業の中で養っていく必要があるかなと考えております。全国学力・学習状況調査が一つの指標ではございますけども、この問題ができてないから、ここだけができてないというように考えるのではなくて、あまっ子ステップ・アップ調査なども踏まえながら、考えていきたいと思っております。

太田垣委員 全国の同じ学年の人との価値っていうのに、そんなに差はないということで安心していいのか。

学校教育部長 はい。

- 片谷委員 昔は10ポイントも差があった時があるのか。
- 嶋名教育次長 16ポイントとか、もっと差がある時もありました。ただ、年々少しずつ改善して、先ほど課長や部長からもありましたが、全国の数値と比較してもほぼ同じとなっております。だから、尼崎のこどもが持っている課題と日本中の課題はおおむね同じといえます。
- 片谷委員 それ以前はどうしてそんなに差があって、それがどうしてまた今近くなってきたのか。
- 嶋名教育次長 その当時は大阪大学に委託をしていたんですが、先ほど太田垣委員の話にもありましたが、体験格差とか経験格差、それから経済格差っていうのが学力の差に出てくるということです。ならば学校の中でそういうのをどのようなところで補っていけるのかという施策はずっと続けてきております。そういったものの積み重ね、学校の放課後学習をしたり、帯学習をしたり、家庭での学習に繋がるような取り組みをしてきたりということだと思います。理科と社会が少し弱いということは、昔も今も傾向として変わってないです。これはこれからの課題だと思っています。
- 徳山委員 JR 尼崎や立花で街の再開発がされて、そこがどんどん平均押し上げて、だんだんそうじゃないところの底上げを図っていくと。学校見学に行った時に、潮スタイルとか、何か家庭と学校をつなぐ連携の宿題とかをやるという試みで、確か潮小学校は当時全国平均プラス何点ぐらいだったかと思う。その成功体験がだんだん尼崎の中で広がってきているのではないかな。
- 学校文化として塚口小学校では、5、6年生だけが鳴らせる鐘というのがあって、学年が上がっていくと、という形ですごく統制がとれていたというか、こどもたちのそういうところをつついて勉強に集中できるとか、校長から説明を聞いた気がする。
- 正岡委員 さっきの太田垣委員が言ってくださった「ごんぎつね」の話ですけど、それに対して平田オリザさんが何か新聞に書いてらっしゃった。こどもたちも体験していないことは、なかなか想像しにくいところ、我々はお母さんの死体をグツグツ炊いているという、それだけですごいショックを受けるが、こどもたちはこどもたちの考えがあって、そういうのを大人が丁寧に説明してあげないと理解できないというか、そういう発想になってもギョッとならない大人でいないと、という内容で、まさしくそうだなと思った。そんなはずないでしょうとか責めるんじゃないくて、コミュニケーションの大切さというか。
- 森山教育長 質疑もないようですので、本件についての報告は終わります。
- 森山教育長 続いて、日程第4「教育長の報告と委員協議」に移ります。報告を求めます。
- 企画管理課長 企画管理課長でございます。「教育委員会8月定例会報告事項」について、ご報告いたします。資料をお開き願います。
- まず、総務関係でございます。7月29日に「令和7年度阪神地区教育長会議・意見交換会」が開催され、教育長が出席されました。8月5日及び20日に政策推進会議がございました。また、同じく20日に「令和7年度第1回阪神7市1町教育長協議会」が開催され、教育長が出席されました。8月21日から22日にかけて「全県夏季教育委員会研修会」が開催され、教育長、教育委員のみなさまにも出席いただきました。

次に、学校教育関係でございます。7月30日に「尼崎市スマホサミット 2025」がございました。また、8月1日に「令和7年度海外語学派遣研修補助事業壮行会」及び「全国・近畿中学校総合体育大会出場選手壮行会」がございました。8月18日から21日にかけて、「AMA フレンドシップ事業」で奄美群島に中学校の生徒等が訪問いたしました。後ほど平場にて、引率された学校教育課長より報告いたします。

次に、社会教育関係でございます。8月6日に「生涯学習審議会」が開催されました。最後に、今後の主要行事予定表でございます。8月29日に「防災総合訓練」を行う予定でございます。9月2日からは9月市議会定例会が開会され、令和6年度決算等についてご審議いただく予定です。教育委員会については、教育委員会9月定例会を9月22日の15時30分からの開催で予定しています。

森山教育長 報告は終わりました。報告内容に質疑はありませんか。

徳山委員 学びと育ち研究所の報告会はどうだったか。

企画管理課長 現場で聞いておりましたが、研究所の研究員は各大学の先生が多く、次々と色々な視点からのご報告をいただきました。こういう視点があるのかってというような気づきにはすごく良かったかと思います。

また、後日視聴できるものを用意すると聞いておりますので、また皆様にお送りさせていただきますかと思います。

森山教育長 質疑がないようですので、本件についての報告は終わります。それでは、ここからは非公開といたします。ここで職員の入替えを行います。

~~~~~以下 議事の大半は非公開とする~~~~~

森山教育長            以上を以って、本日の日程は全て終了いたしました。これをもちまして、尼崎市教育委員会8月定例会を閉会といたします。

以上、尼崎市教育委員会8月定例会の議事の全部を終了したので、午後4時43分、教育長は閉会を宣した。

尼崎市教育委員会8月定例会において、以上のとおり議事が行われたことを記録します。